

令和3年3月1日

陳 情 文 書 表

環境農政常任委員会

陳情番号	67	付議年月日	3. 2. 18
件名	ニホンザルH群被害対策に関する陳情		
付議委員会	陳情者		
環境農政常任委員会	※陳情者の個人情報については、個人情報保護のため、削除しています。		
<p>1 陳情の要旨</p> <p>現在、西湘地域個体群のうち小田原市早川地区から片浦地区にかけて生息しているニホンザルH群（以下、「H群」という。）については、行動域が農地はもちろんのこと、住宅地にまで拡大し、農作物被害や生活被害が常態化してしまっている。我々は一刻も早く、このような被害の解消を懇願しており、次期「第5次神奈川県ニホンザル管理計画」においてH群の全頭捕獲を位置づけていただきたい。</p> <p>2 陳情の理由</p> <p>これまで、H群については、かんきつ類の食害等の農業被害や、屋根の上で暴れたり、雨どい等の破損やふん尿被害、威嚇される等の生活被害が常態化していましたが、最近では特に住宅地周辺での生活被害や人身被害が頻発しています。</p> <p>神奈川県は「第4次神奈川県ニホンザル管理計画」の中で、H群などの西湘地域個体群は安定的な維持について配慮が必要としており、被害防除対策を講じながら維持していくとしていますが、被害防除対策として示された山間部への追い上げや電気柵の設置等は、これまでに神奈川県や小田原市などが実施してきたものの、その取り組みは全て効果が乏しく、「第4次神奈川県ニホンザル管理計画」の目標として掲げている「農作物被害の軽減」と「生活被害・人身被害の根絶」には遠く及ばず、結果として、H群の維持は我々住民の犠牲の上に成り立っているといっても過言ではなく、我々住民にそれを容認せよということは到底納得できるものではありません。</p> <p>農業従事者からは「廃業するしかない」「子どもに後継ぎになってくれとは言えない」など、営農意欲の減退がうかがえる発言も耳にしています。また、片浦地区では、根府川駅構内や駅前広場にも群れで出没し、駅利用者を威嚇する他、最寄りの小学校までの通学路上では、小学生を追い回したり、飛び掛かったりすることが日常茶飯事となっています。これによって、小学生はパニック状態になるなど、通学路上の安全確保ができず、将来を担う大切な子どもたちにまで、その心の奥底にニホンザルへの恐怖という爪痕を残すことになりかねません。早川地区でも住宅敷地内や生活道路兼通学路上を、H群が縦横無尽に走り回り、暴れ、威嚇するなど、深刻な事態となっています。</p> <p>令和2年12月に小田原市から調査の依頼を受け、地区住民にニホンザルの被害状況を確認したところ、実に多くの住民が様々な被害に遭われていることが分かりました。我々住民からすれば、敷地内に出没しただけでも「何かされてしまう」「怖くて外に出られない」と感じ、長年にわたり受けてきたそのような精神的苦痛は計り知れません。</p> <p>以上のことから、H群の被害を受けている我々住民としては、一刻も早く被害の解消を図ってもらうことが切なる願いであり、これまでの被害防除対策が限界である今、H群の全頭捕獲による除去によって被害の根絶を図っていただきたく、陳情申し上げる次第です。</p>			